

疫学研究・臨床研究に関する情報の公開

| | |
|---------------------|---|
| 研究課題名 | 二相性けいれんと遅発性拡散能低下を呈する急性脳症に対する多施設共同コホート研究 |
| 所属科 | 神経科 |
| 研究責任者 | 浜野晋一郎 |
| 研究期間 | 2014年12月11日～2016年3月31日 |
| 研究概要 | <p>小児の急性脳症は四肢麻痺や発達の遅れなど神経学的後遺症を残す重篤な疾患である。しかし、現時点では有効な治療が解明されていない。治療は病原体に関わらず、厚生労働省研究班による「インフルエンザ脳症ガイドライン」に掲示された方法が用いられているが、有効性のエビデンスが明示されたものではなく、治療内容の選択は現場の担当医師の裁量により行われている。急性脳症はいくつかのタイプに分類され、中でも二相性けいれんと遅発性拡散能低下を呈する急性脳症（acute encephalopathy with biphasic seizures and late reduced diffusion, 以下、AESD）は日本人に多く、我が国の急性脳症全体の29%を占め、最も多い病型である。予後は約6割以上で中等度以上の神経後遺症を残す。現時点では発症早期における予後予測方法、早期診断方法についても確立していない。</p> <p>本研究の目的は各施設でAESDに対して実施されている治療内容の現状および予後調査を行い、その有効性を確認し、将来的に有望な治療法を見出し、よりよい予後改善を導く治療方法を開発する。</p> <p>本研究は、東京都立小児総合医療センター 神経内科（三山佐保子部長）を代表とする多施設共同研究で、当センターの他、関東を中心とした各都県の代表的な小児専門医療施設が登録している。共同研究者は研究期間中に対象症例を診療した場合、都立小児総合医療センター内に設置されているデータセンターに登録し、対象症例に対し実施した治療および予後を報告する。集積されたデータをもとに各種治療による神経学的予後の相違の有無を検討する。</p> <p>患者および家族は、研究に参加することを断る権利を有し、断ったことによる不利益は一切存在しない。</p> |
| 倫理的配慮・個人情報保護の方法について | 症例登録するにあたり、データセンターは固有の匿名符号を付与し、研究事務局では対象症例氏名・カルテ番号は管理せず保管しない。本研究は当院倫理委員会の承認をすでに得ている。 |
| 研究の問合せ先 | 埼玉県立小児医療センター内研究責任者：浜野 晋一郎 埼玉県立小児医療センター 神経科 〒339-8551 埼玉県さいたま市岩槻区馬込 2100 番地 TEL: 048-758-1811 |
| 結果の公表について | 個人情報を消去した上で、集計されたデータのみを国内外の学術集会・学術雑誌などで公表する。 |
| 利益相反について | 本研究の計画、実施、発表に関して可能性のある利益相反はない。 |